

語註・典故・作詩メモ

・香雪…白い花。梅の花。
 ・麴塵…柳の若芽。
 ・早鶯…初春のウグイス。
 ・片影…ちらつと見えたかげ。ちよつと見える物の姿。
 ・汗漫…いいかげんでしまりのないこと。そのさま。
 ・薰煖…いい香りがして暖かい。
 ・撫柔…なでやわらげる。いつくしみ安んずる。

その他のメモ

結 句			転 句			承 句			起 句			詩 題	
薰	○		忽	●		早	●		香	○		黄鳥初聲	
煖	●		聞	○		鶯	○		雪	●			
微	○		汗	●		片	●		麴	●			
風	○		漫	●		影	●		塵	○			
欲	●		鳥	●		在	●		春	○		尤 韻	
撫	●		啼	○		枝	○		事	●			
柔	◎		處	●		頭	◎		幽	◎			
読 み 下 し 文													
薰煖たる微風			忽ち聞く			早鶯の片影			香雪			黄鳥初聲	
撫柔せんと欲す			汗漫と鳥啼く處			枝頭に在り			麴塵				
									春事幽なり				

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	名前
令和五年三月七日	仄起式	
		牛山 知彦

No. 2

清客 梅の別名		◎語注・典故など	白文										支韻平起挾平格			
			結句	批正	転句	批正	承句	批正	起句	批正	詩題	批正				
			恍	●		黄	○		清	○		早	●		雪	
			觀	○		鳥	●		客	●		晨	○		中	
			陶	○		初	○		未	●		曳	●		聽	
			醉	●		聲	○		開	○		杖	●		鶯	
			報	●		一	●		風	○		雪	●			
			春	○		枝	○		自	●		晴	○			
			姿	○		上	●		移	○		時	○			
			書き下し													
		◎作詩メモ・釈文など	恍			黄			清			早			雪	
			として			鳥			客			晨			中	
			観て			初			未			杖			に	
			陶			声			だ			を			鶯	
			醉す			一			開			曳			を	
			春			枝			か			雪			聴	
			を			の			ず			晴			く	
			報			上			から			れる				
			ずる						移			る				
			姿													

氏名 宇野次郎

二〇二三年三月二日

結 句				轉 句		承 句		起 句		詩 題	
新 ○		東 ○		微 ○		一 ●		黃鳥初聲			
哢 ●		風 ○		聞 ○		朶 ●					
黃 ○		料 ●		香 ○		早 ●					
鶯 ○		峭 ●		氣 ●		梅 ○					
語 ●		春 ○		竹 ●		經 ○					
未 ●		猶 ○		籬 ○		雨 ●		先 韻			
圓 ◎		淺 ●		邊 ◎		鮮 ◎					

[illegible]

黄鳥初声 こう ちようしよせい	一朶 いちだ 早梅 そうばい 雨 あめ を を 経 へ て あさ 鮮 あさ やか あさ なり	微 かす かに き 聞 き く 香 かう 氣 き 竹 ちく 籬 り の へん 辺	東風 とうふう 料峭 りようしやう として 春 はる 猶 な お あさ 浅 あさ く	新 あら たに ろう 咲 す 黄 こう 鶯 おう 語 ご 未 いま だ まどか 円 えん なら ら ず
--------------------------------	--	--	--	---

神奈川 漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絕句)

作詩日	平仄式	岡嶋 宣昭
令五・三・提出	名前	

語註・典故・作詩メモ

溶溶・・・気候の暖かなさま
 清曙・・・清く晴れた早朝
 心期・・・心中に期待する
 万葉の時代から江戸にかけての歌人が鶯をとりあげた和歌を参考にして創作しました。

その他のメモ

結句

転句

承句

起句

詩題

来
日
心
期
桜
発
時春
林
清
曙
聞
鶯
語今
朝
風
払
落
花
姿雪
解
溶
溶
紅
満
枝

黄鳥初聲

支韻

読み下し文

来日
心期する
桜発の時らいじつ
しんき
さくらひらく春林
清曙
鶯語を聞くせいしよ
おうご今朝
風払う
落花の姿

こんちよう

雪解け
溶溶たり
紅枝に満つ

ゆきと

黄鳥初聲

平仄式

仄起式

名前

高橋 幸雄

作詩日

令和五年 三月

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

語註・典故・作詩メモ

習習(61a)：風のそよ吹くさま
 好春晴(3d)：春の心地よく晴れ上がった空
 疎影外『41』：疎らな影(特に梅の木の枝が疎らなさま)の
 詩境(206c)：詩歌の境地

結句	転句	承句	起句	詩題
誰○	漫●	黄○	軽○	黄鳥初聲
知○	歩●	鳥●	風○	
詩○	探○	林○	習●	
境●	梅○	叢○	習●	
勃●	疎○	初○	好●	庚韻
然○	影●	有●	春○	
生◎	外●	聲◎	晴◎	

読み下し文

誰^{だれ}か^し知^しる
 詩^し境^{きやう}
 勃^{ぼつ}然^{ぜん}と^{しやう}生^{しやう}ず

漫^{まん}歩^ぽ
 探^{たん}梅^{ばい}
 疎^{うと}影^{かげ}の^{そと}外

黄^{こう}鳥^{ちやう}
 林^{はやし}叢^{そう}に
 初^{はじ}め^めて^ての^{こゑ}聲^あ有^あり

軽^{けい}風^{ふう}
 習^{しゅう}習^{しゅう}と
 好^{こう}春^{しゅん}晴^{せい}

黄^{こう}鳥^{ちやう}
 初^{しよ}聲^{せい}

その他のメモ

「林叢く探梅」の組合せよりも「梅林く羊腸／榮回」の方が良かったか？

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	平起式	名前
R 5・2・14			武田 一郎

語註・典故・作詩メモ

○吃舌・舌足らずの、どもる

結句	転句	承句	起句	詩題
吃 ●	微 ○	南 ○	混 ●	黄鳥初聲
舌 ●	風 ○	窓 ○	沌 ●	
新 ○	習 ●	纔 ○	世 ●	
鶯 ○	習 ●	發 ●	情 ○	
渡 ●	吹 ○	数 ●	春 ○	灰韻
谷 ●	茅 ○	枝 ○	又 ●	
来	舎	梅	廻	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ

読み下し文

吃舌きつぜつの新鶯しんおう谷やを渡わたつて来きたる微風びふう習々しゅうしゅう茅舎ぼうしゃに吹ふき南窓なんそう纔わずかに発はつす数枝すうしの梅うめ混沌こんとんたる世情せじやうに春はる又また廻めぐる黄鳥初聲ワニツヂウセイ

作詩日

令和五年二月十七日

平仄式

仄起式

名前

平賀康雄

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

語註・典故・作詩メモ							結句			転句			承句			起句			詩題
							随	○		仰	●		樹	●		林	○		
							風	○		見	●		上	●		間	○		黄鳥初聲
							緩	●		微	○		初	○		幽	○		
							歩	●		聞	○		鶯	○		径	●		
							賞	●		春	○		時	○		落	●		
							心	○		尚	●		一	●		花	○		庚韻
							傾	◎		浅	●		聲	◎		輕	◎		

その他のメモ							起句						
							詩題の読み						
							林間の幽径落花輕し						
							樹上に初鶯時に一声						
							仰ぎ見て微かに聞くも春尚浅く						
							風に随ひ緩歩すれば賞心傾く						

作詩日	平仄式	平起式	名前
令和5年3月8日			古川 彌

語註・典故・作詩メモ

結句	転句	承句	起句	詩題
又 ○	不 ●	行 ○	暗 ●	探梅聽黃鳥初聲
聽 ○	負 ●	樂 ●	香 ○	
出 ●	染 ●	閑 ○	浮 ○	
谷 ●	成 ○	人 ○	動 ●	
早 ●	千 ○	歩 ●	遇 ●	庚韻
鶯 ○	樹 ●	歩 ●	花 ○	
聲 ◎	雪 ●	輕 ◎	精 ◎	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	平起式	名前
令和5年2月			松本祐輔

その他のメモ

読み下し文

又また聴きく谷たにを出いず 早そう鶯おうの聲こえ負おもかず染そめを成なす 千せん樹じゆの雪ゆき行こう樂らくの閑かん人じん 歩ほ歩ほ輕かるし暗あん香こう浮ふ動どうして 花か精せいに遇あう梅うめを採さくりて黄鳥こうちようの初聲しよせいを聴きく

語註・典故・作詩メモ							結句			転句			承句			起句			詩題	
							此	●		農	○		滔	○		燦	●		黄鳥初聲	
							日	●		夫	○		滔	○		燦	●			
							初	○		默	●		湧	●		陽	○			
							聴	○		默	●		水	●		光	○			
							黄	○		勤	○		洗	●		照	●		庚韻	
							鳥	●		耕	○		芹	○		幼	●			
							聲	◎		殖	●		荃	◎		萌	◎			

[illegible]

黄鳥初聲 こうちよはつせい	燦燦たる陽光幼萌を照らし さんさん　ようこう　ようぼう　て	滔滔たる湧水芹茎を洗う とうとう　ゆうすい　きんけい　あらう	農夫黙黙として耕殖に勤しむ のうふ　もくもく　こうしよく　いそ	此の日初めて聴く黄鳥の聲 こ　ひ　はじ　き　こうちよう　こえ
------------------	----------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------

神奈川 県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絕句)

平仄式	仄起式	名前	三浦昭二
作詩日			
令和五年三月七日			

語註・典故・作詩メモ

結 句		轉 句		承 句		起 句		詩 題	
鶯 ○		忽 ●		花 ○		暗 ○		黃鳥初聲	
語 ○		看 ●		發 ●		香 ○			
尚 ●		梢 ○		老 ●		被 ○			
在 ●		梢 ○		梅 ○		誘 ●			
氣 ●		黃 ○		詩 ●		步 ●			
軒 ○		鳥 ●		情 ●		迴 ○		東韻	
高 ◎		轉 ●		強 ◎		廊 ◎			

[illegible]

文	し	下	み	読
黄鳥初声 おう ちようしよ せい				
暗香に誘われ廻廊を歩す あん ころも さへ かいろう ほ				
ひらき				
老梅に花発き詩情強し ろう ばい はな はつ しじよう つよし				
しょうしょう				
忽看る梢梢に黄鳥の囀るを たちまみ こずえこずえ おう ちよう さえず				
鶯語尚在り気軒昂たり おう こと なお あ き けん げん とう				

神奈川 漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絕句)

平仄式	平起式	名前	森谷正彦
作詩日			

語註・典故・作詩メモ

蕭疎――木の葉などまばらで寂しい

新譚――初声

結 句			轉 句			承 句			起 句			詩 題	
遷	○		季	●		小	●		庭	○		希遷鶯初聲	
鶯	○		候	●		院	●		梅	○			
何	○		不	○		蕭	○		未	●			
日	●		純	○		疎	○		綻	●			
奏	●		例	●		寂	●		薄	●			
新	○		年	○		莫	●		寒	○		麻 韻	
譚	◎		倍	●		華	◎		加	◎			

[illegible]

遷 せん 鶯 おう 何 は れ れ の の 日 ひ に に か か 新 しん 譚 たん を を 奏 そう で で ん	季 き 候 こう の の 不 ふ 純 じゅん 例 れい 年 ねん に に 倍 ばい し	小 しょう 院 いん 蕭 しょう 疎 そ 寂 せき と と し し て て 華 は 莫 な し	庭 てい 梅 ばい 未 まい だ だ 綻 ほ び び ず ず 薄 はく 寒 かん 加 く わ わ り	遷 せん 鶯 おう 初 はつ 聲 せい を を 希 のぞむ
---	---	--	---	---

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絕句)

作詩日	平仄式	平起式	名前	諸星暢義
令和五年二月				初稿

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	名前
2023年3月8日	平起式	山口 幸雄

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題
○余寒 立春になり寒が明けてからの寒さ。残寒 ○黄鳥 うぐいすの別名 ○惠風 恵みの風。万物を生長させる暖かい風のこと。春風 まず転句結句ができたけれど、起承がうまくつながらない。				房州春色老梅紅	黄鳥初聲發溪谷	上阜觀山度惠風	余寒海畔小蹊通	黄鳥初声 東韻
その他のメモ 余寒の海辺に一筋の道があった。 丘に上り山を觀望すると春らしい風が吹いてきた。 鶯の初鳴きが谷の方から聞こえてくる。 房総は春になった、老梅も紅い花をつけている。				房州春色 老梅紅なり	黄鳥初聲 溪谷に發し	上阜に上り山を觀れば 惠風度る。	余寒の海畔 小蹊通ず、	黄鳥初声